

H M 講習

士会、三浦工匠店代表取締役（締役）が実技を中心に講義を行った。

27年度第3回ヘリテージ・マネージャー育成講習会は11日、福島市の県建設センターで開かれた。今回は「歴史的建造物の修復保全」をテーマに、三浦藤夫氏（県建築

手方向の継ぎ、仕口（角声）が漏れた。度をつけた繋ぎ）による木造モデルを使い、受講生とともに解体・組み立ても実演。その後、古民家や大阪城に使われている実物大の継手・仕口モデルを外すと、受講者からはその仕組みに感嘆の

が、自らの体毛を変えたもので、スギはひげから、ヒノキは胸毛からできたもので、スギやクスノキは船、ヒノキは宮殿（寺社）、マキは棺桶と用途も示している。

には「法隆寺は」とどこにもなる。この減りを計算すると、年数が分かれる。数百年持たせる寺社などの建築物は、この減りを計算した厚さが必要となる。

大鉞、槍鉋など使い方学ぶ

講師の三浦氏の継手・仕口を説明



古道具を試す受講生（上）と継ぎ手・仕口モデルの組み立て

る安藤大工道具館に移動し、安藤組会長・安藤錬雄氏が集めた2000点もの展示物に触れた。大工覚えの内容は次の通り。

■木材 日本書紀によるとスサノオノミコト

800年、ケヤキは500〜600年持つといわれており、法隆寺の伽藍改修時には、西岡常一棟梁がその古材にカンナをかけると、ヒノキの香りがなおも漂ったという。そして修理が終了した際は大きく100年で6〜は

■番付 大工の板図には90°ごとに右から左へ「い、ろ、は、上から下に「1、2、3」と打つてあり、これにより建物をつくるが、地域によつては下から「1、2、3」とふつていくものや、左から右に「い、ろ、は」とふるところがある。

■風食 木材は100年で5分ほどの「風食」が生じる。破風はこれが大きく100年で6〜は

■吸水 木材は300〜400ほどの吸水があるが、空気が乾燥するとこれを放出する。その際にヒノキなどはヒノキチオールを放出するとい